

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090700172
法人名	株式会社 ニチイ学館
事業所名	ニチイケアセンター-下上津役 <span style="float:right">ユニット名 あたご</span>
所在地	福岡県北九州市八幡西区下上津役二丁目11番20号
自己評価作成日	平成24年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年8月23日	評価結果確定日	平成24年11月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

環境がよく、四季の移り変わりが地域の行事と密着しており、それに参加することがお客様の楽しみになっているので、希望者が出かけられるようにスケジュールを認知したり、ご家族に参加していただいたりしています。お客様に寄り添い過ごす中でのお付きを大切に、認知症の介護を行なうように心がけお客様一人ひとりのペースを大切にしています。お食事を一緒に作ったり、レクリエーションをしたり、日々の生活の中で出来るだけ現有能力を発揮でき、それを最大限に生かせるようサポートしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな住宅地の中にありながら、近くには川や緑も多く、また公共施設やスーパー、お店などもあり、利便性の高い場所に位置している。グループホームの玄関には、「こども110番」のプレートや、毎月発行している「ほほえみ新聞」などが貼られていて、気軽に立ち寄れる雰囲気がある。「現有能力を、最大限に発揮できるようにサポートします」という指針を介護計画の中に生かしている。生活の質の維持、継続に向け、生活リハビリとして、残された能力を引出し、一人ひとりが生き活きと過ごせる様、個別に支援している。地域のお祭りである神事や、地域清掃にも参加して地域の中に溶け込む努力をしている。法人が長年培ってきた、経験や知識、ノウハウを生かし、サービスの質の確保に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしくいつまでも、ありのままの姿で生活できるように地域と共に高齢者を支えていけるグループホームを目指します。現有能力を最大限に発揮できるようにサポートします」と言う理念を全員で共有・実践しています。	法人の社是「誠意、誇り、情熱」のほかに、事業所独自の6項目の指針が作られている。毎日、申し送りの前に理念を唱和している。全体会議の時に理念についての話し合いを持ち、理念の共有を図っている。「生活リハビリ」に重点が置かれ、生活レベルの維持、継続に向け日々様々な取組がなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内からの回覧板を持って行ったり、散歩をするときすれ違う方にこちらから挨拶を交わしたりするように指導している。地域の盆踊り大会に参加したり川で行なわれる神事の見学等交流に努めている。	町内会に加入しており、回覧板を入居者と一緒に届けている。ウッドデッキでは散歩途中の方が声をかけてくれたり、挨拶をかわしたりと、日常的なふれあいがある。当事業所はこども110番の役割も担っており、近くの子供が気軽に来訪する機会もある。地域の夏祭りの見学や、町内清掃活動にも参加し交流に努めている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護保険に関する相談を受け付けている。季節の行事の案内をして参加していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、参加者からの意見を実践に生かすようにしている。	運営推進会議では、家族、町内会長、地域包括支援センター職員等の参加があり、2か月に一度開かれている。毎月発行されている「ほほえみ新聞」の中で会議の案内を掲載し、参加を呼び掛けている。会議後には、認知症の話や、薬局の方が来て薬の話をしてくれる機会を設ける等、家族が参加しやすい取り組みを行っている。会議を欠席された家族には後日書面で報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターに相談に行ったり、運営推進委員会に参加していただいている。空室時の状況を伝えている。	地域包括支援センターを主に、意見を貰ったり運営推進会議に参加していただいている。困難事例を相談したり、空き室状況を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的にチェックリストを用い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会があり定期的に活動を行っている。法人のマニュアルを参考にして独自のチェックリストを作成し、チェックを行っている。玄関のチャイムはあるが施錠は行なわれていない。就寝時転倒の危険性のある方については、離床センサーは使用せず、家族に説明をし布団に鈴をつけるなどして拘束しないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催している。報告・連絡・相談の徹底をする。		

福岡県 ニチイケアセンター下上津役

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	セミナーへ参加しホームへ落とし込みをしている。	採用時に研修を実施している。市の主催で行われる研修に参加し、後日伝達講習を行い職員と共有している。現在権利擁護に関する制度を活用している方はいないが、研修を通して理解を深め、活用できるように支援体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分かりやすい言葉に置き換え説明を十分に行なうように心がけている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置を行なっている。 苦情に関するフローを掲示している。	意見箱の設置や、満足度に関するアンケート調査を行っている。運営推進会議の中でも、質問を受ける等、積極的に意見を収集している。家統がホームに来た時などにも、気軽に話せる様に声をかけている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一ヶ月に一度全体会議を行い、職員の意見を聞いている。また個人的に相談しやすい環境にするように心がけるとともに定期的に面談の機会を作る。	全体会議の中で意見を出してもらっている。年2回、管理者が職員と面接する機会を利用して、要望や相談、悩み、仕事、待遇面など幅広く聞く機会を設けている。管理者は日頃より話しやすい職場の環境作りを心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って仕事ができるように年に2回個別面談を行い、介護に対する考えのヒヤリングを行なっている。会社としてもキャリアアップの制度があり活用するように努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に関しては年齢や性別、その他のことでも不利益にならないように気をつけている。採用マニュアルを参考にしている。職員に関しては積極的に会話を心がけ年2回の面談を行い、ステップアップできるよう助言指導を行なっている。	新卒から60代まで、幅広い職員がおり、明るく、働きやすい職場作りに努めている。60歳の定年後も1年毎の契約更新が可能となっている。採用後、資格取得やキャリアアップの支援体制も整っている。また、就業前の特技(フルート演奏)なども役立つ場面が多々あり、能力を発揮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者の尊厳と自立を念頭に置き勉強会の開催を行なっている。職員に対しては自分の親を入所させたい施設、自分がしてもらいたい介護を提供できるように日々指導している。	勉強会を開き、外部研修にも参加している。参加した職員が全体会議で報告し、伝達して意識の共有を図っている。	

福岡県 ニチイケアセンター下上津役

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内では入社時期から経過を踏まえてテクニカル研修を対象者に行なうようにしている。がオプの研修にも積極的に参加していくようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所連絡協議会に参加をしたり、勉強会に参加することで他事業所との交流を図れるように配慮している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前にご本人の面談とセンター方式を使い生活暦を知ること、早くなじみの関係が作れるように配慮している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	内覧や申し込みをいただいた際、契約を行なうときに困っている事や要望を聞きだすように心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式を用い、必要とする支援を見極めるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様の立場に立った考え方をしながら個々の状態に合わせた接し方をしている。なじみの関係を作ることで安心して生活できるように配慮している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何か変化があったときは、すぐにご家族に相談している。らい所持にご様子を報告したりケアプランの作成時には必ずご要望をプランに反映させている。面会時間の制限をせず仕事帰りにもお立ち寄りできるようにしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時にはご家族に飼っておられたペットを連れて来て頂き癒しの時間を過ごしていただいたりもしている。また大切にされていた物なじみの品物も入居の際には持参していただけるよう声かけしている。	センター方式を活用し、馴染みの人や場所の把握に努めている。行きつけの美容室に通ったり、馴染みのお店で買い物や外食をしたりして楽しむことができている。以前住んでいた近所の方や友人が訪問してくれるなど関係の継続を支援している。	

福岡県 ニチイケアセンター下上津役

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を尊重しながら生活してもらっている。生活リハビリを中心にできる事を役割分担し同じ時間を過ごすようにサポートしている。また共通の話題を提供し会話を楽しくめるよう橋渡しをしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他にご入居の場合は面会にお伺いし状況を確認させていただいたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用することで本人の意向を出来るだけ明確にしカンファレンスを開き検討し実現できるようにしている。	センター方式を採用している。入居時には家族の方に記入してもらい、その後は職員全員で記入していき、タイムリーな思いや意向の把握に努めている。3時のおやつの時間では、管理者が雑談をしながら、入居者同士の会話から、思いや希望を聞き取り意向の把握へとつなげている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にも協力していただきセンター方式でこれまでの生活歴を把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できること出来ないことシートを用いて現有能力を最大限に発揮できるよう支援している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを開き現状の検討、モニタリングを通じて介護計画書に生かせるように努めている。またカンファレンスへの参加をご家族にも声かけを行っている。	出来る事、出来ないことを把握し、能力・特技が発揮できるよう生活リハビリを重点にしたケアプランが作成されている。見直し時は定期的に家族に聴取し、カンファの参加を呼びかけ一緒に検討し、協働・共有を図っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にはなるべくご本人が言った言葉をかくようにし言葉の裏にある真実を見つける努力をしている。毎朝の申し送りと管理日誌で情報の共有を行い必要に応じてカンファレンスを行い介護計画の見直しを行なっている。		

福岡県 ニチイケアセンター下上津役

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応が出来るようスタッフのシフトを変更し出勤人数を多くし季節ごとの外出や行事の充実を図っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の季節の行事に参加している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連絡を取りながら心身の状況の把握に努めている。	毎週訪問看護や、訪問歯科、月2回の協力医による往診などがあり、日々の健康管理につとめている。病院への受診は家族に協力をお願いし受診支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっており1週間に1度健康チェックに来てもらっている。何か問題がある時は24時間連絡可能となっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師や看護師と十分なコミュニケーションをとり早期退院に向けて調整するように心がけている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合家族と話し合い、ご本人の状況を踏まえた上でターミナルケアが出来るかどうかの検討を行なっている。ターミナルの場合は医師から指導を受けスタッフが情報を共有し統一したケアを提供する。	入居時に家族に説明をしているが、重度化した場合は再度医師、家族、事業所間で話し合い、希望に添える様にしている。6月にターミナルを経験したが、職員も事前に研修を行い、万全の態勢で支援している。過去の経験を生かし、心のケアを大切に真摯な態度で臨んでいる。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1年に1度救急救命指導を受けている。定期的な勉強会で緊急時の対応について学ぶようになっている。入社時に担当者が夜勤前に指導を行なっている。		

福岡県 ニチイケアセンター下上津役

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3ヶ月に1度消防署の指導の下防災訓練や自主避難訓練を行なっている。防災マニュアルの設置。	夜間も想定して、消防署の立会の訓練、事業所での自主訓練が、年に2回ずつ行われている。廊下には避難場所や避難経路が掲示されていて、緊急時にすぐ分かる様にしている。	隣接して民家があり、緊急時には協力を願う事も想定して、訓練時には、近所、地域の方に声掛けをし参加を促してみてもどうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束委員が、スピーチロックの勉強会を行ったりポスターを製作し意識づけをし高齢者の尊厳を守るよう努力している。また個々に合わせた言葉掛けや対応をしている。	道路に面した部屋の窓は、スモークガラスにしており外からは見えないようになっている。お便利「くまの通信」にも実名ではなくイニシャルで掲載し、プライバシーに配慮している。職員にはテスト形式で回答してもらい、個人情報に関するチェックリストもあり、意識して行動する様心掛けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るような声かけを工夫し職員主体にならないように努めている。出来ない方には二者選択をしてもらうようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自分のペースで過ごせるようにサポートしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日お化粧される方もおられるので担当スタッフを決め支援している。入浴後の化粧水、乳液等での簡単なお肌のケアも行なっている。訪問理美容にてご自分の好きなヘアスタイルが出来るように支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けがスタッフと一緒にできるようにしている。1週間に1度レクレーションとして食事作りをしている。時折出前を取ったりインターネットで旬の食材を購入したり、スイーツを買いに行ったりしている。	本社の献立を参考にして、職員で献立を作成している。特別食は協力医に相談し助言を得ている。週に1回は皆で食事作りを楽しんでいる。それぞれ、買い出し、食材の下ごしらえなど、出来ることで参加している。誕生日には月の合同誕生会を開催するのではなく、一人ひとり本人の誕生日にお祝いしている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェックし摂取できるよう個々に合わせた工夫支援を行なっている。		

福岡県 ニチイケアセンター下上津役

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に合わせて仕上げ磨きなどを行なっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時にセンター方式で排泄パターンの把握に努めている。時間ごとにトイレ誘導し不必要なオムツ使用はしていない。羞恥心に配慮した支援を行なっている。	排泄パターンを把握して、適宜にトイレに誘導している。極力オムツの使用を避け、車いすの方も時間ごとにトイレに誘導して、排泄していただいている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘についての勉強会を行なったり、水分量や植物繊維の多い食材の提供している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日、時間は決めておらず好きな時間になるべく入れるように調整している。また季節の行事も取り入れ楽しんでもらっている。	基本的に毎日入浴の準備が出来ている。毎日入浴される方、午前、午後、夕方に入る方もいるので、本人の希望に添える様、柔軟に対応している。柚子湯、しょうぶ湯、入浴剤で温泉気分など、入浴を楽しめる様工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動性を上げることで心地よい睡眠が取れるようにしている。消灯時間などは決めていない。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理日誌にて申し送りをし周知徹底をしている。服薬介助方法はマニュアルを用い指導している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様のできる事を見つけ役割を持っていただき介護計画を作成している。日課や役割を表にし掲示しシールを貼ることで達成感を持ってもらっている。また散歩やレクリエーションで気分転換を図っている。		



福岡県 ニチイケアセンター下上津役

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望があればできるように取り組んでいる。またご家族の協力を得て外出を楽しまれている。	近隣への散歩は、日常的に行われている。夏場は涼しい時間に、冬場は防寒に気を付け、少人数で交代で出かけ、車いすの方も一緒に散歩を楽しまれている。玄関にお花を生けるため、お花を買いに行かれる方、食材の買い出しに行かれる方などもある。また皆で博物館の見学、モールでのランチなどもしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お出かけた時は本人が買い物を楽しめるように能力に応じて支援し、1対1で対応している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればいつでも電話できるようにしている。年賀状や暑中お見舞い状を出せるようレクリエーションの中に取り入れ欠いてもらうよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が分かるように毎月壁紙を皆で作成している。常に環境整備に努め花を飾ったしている。適度な明るさを保ち、昼間は皆が集える場所となっている。	居間兼食堂からウッドデッキに続いており、いつでも外に出る事ができる。食堂の横には置コーナーも設けられている。廊下にもソファが置かれ、手作りのカバーが掛けられ、くつろぐ事が出来る。壁には皆で作った季節の作品、書道作品、行事の写真などが飾られ、楽しい共用空間になっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のテーブル席以外にも、椅子やソファを置き、好きなところで寛いでもらえるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が安心、安全に生活できるように環境整備を心がけている。また入居時使い慣れたものを持って来て頂くようお願いし寛げるお部屋づくりを心がけている。	ベットは各自で持ち込みになっている。道路側の大きな窓は、プライバシーに配慮して、スモークガラスになっている。家庭より、鏡台、テレビなどが持ちこまれており、好きな芸能人の写真やポスターが飾られている。入口には作品である花や飾りがつけられており、個性豊かなお部屋になっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式を用い出来ること出来ないことを把握したうえで安全に生活できるよう配慮している。		